

環境定点測定結果（平成29年度 冬季）

1. 結論及び考察

測定の結果、各測定地点における数値は概ね同程度であり、また、東京都が設置している大気汚染常時監視測定局（多摩市愛宕測定局）と比較しても数値は同程度でした。

また、全ての測定項目で、法令の基準となる値を下回っていました。

以上のことから、周辺の公園等へ著しい環境影響を及ぼしていないものと考えられます。

なお、詳細は下表のとおりです。

	測定日
運転時	平成30年1月10日（水）から1月11日（木）まで

2. 測定結果一覧表

測定地点 可燃ごみ処理施設	新井公園		新井わかたけ公園		落川交流センター		大気汚染常時監視測定局 (参考)		基準値
	停止時	運転時	停止時	運転時	停止時	運転時	停止時	運転時	
測定項目									
二酸化硫黄 (ppm)		<0.001 (※1)		<0.001 (※1)		<0.001 (※1)		0.001	0.04以下
浮遊粒子状物質 (mg/m3)		0.012		0.012		0.012		0.009	0.10以下
二酸化窒素 (ppm)		0.019		0.018		0.016		0.017	0.04~0.06のゾーン内又はそれ以下
ダイオキシン類(大気質) (pg-TEQ/m3)		0.012		0.012		0.011			0.6以下
塩化水素 (ppm)		0.003		<0.002 (※1)		<0.002 (※1)			0.02以下
水銀 (μg/m3)		0.002		0.002		0.002			0.04以下
悪臭 (臭気指数)		10未満		10未満		10未満			10
悪臭 (定性分析)		(※2)		(※2)		(※2)			
ダイオキシン類 (土壌) (pg-TEQ/m3) (※3)				5.5		27			1,000以下

(※1) 「<」は定量下限値未満を示します。

(※2) 特に臭気に影響を及ぼすような濃度で検出された物質はありませんでした。

(※3) 土壌は排ガスによる急激な変化が現われないため、各地点で年1回（夏季又は冬季の運転時のみ）測定し、経年変化や傾向を確認します。

※ 本結果を確認するにあたり、下記事項にご留意ください。

- ① 新可燃ごみ処理施設の本格稼働開始までは、日野市可燃ごみ処理施設の運転時（2炉運転時）及び停止時を対象として測定を実施します。
- ② 停止時は、新井公園・新井わかたけ公園・落川交流センターの3地点から代表した1地点で年1回の測定しています。平成29年度は新井公園にて夏季に測定を実施しています。
- ③ 測定地点と周辺地域の大气質の様子を比較するための参考として、大気汚染常時監視測定局（多摩市愛宕測定局）のデータを掲載しています。
- ④ 掲載している基準値は各測定項目におけるそれぞれの法令等で定められたもので、煙突の排ガス基準とは異なるものです。

なお、当該基準は測定地点における各測定項目に適用されるものです。

測定項目	基準の名称	基準の根拠法令等
二酸化硫黄	環境基準	環境基本法
浮遊粒子状物質		
二酸化窒素		
ダイオキシン類(大気質)		
塩化水素	目標環境濃度	環境庁大気保全局長通達（昭和52年6月16日 環大規136号）
水銀	指針値	環境省管理局长通知（平成15年9月30日 環管総発第030930004号）
悪臭(臭気指数)	悪臭防止法の規定に基づく悪臭の規制基準	日野市告示第74号
ダイオキシン類(土壌)	環境基準	環境基本法

用語の説明

用語	説明
ppm	パーツ・パー・ミリオン(の略で、「100万分の1」という意味。「%」と同様、割合を示す単位(1ppm=0.0001%) 1ppmを身近なものに当てはめると、次のようになる。 長さ：1kmの行程のうちの1mm 容量：一般の家庭用風呂(約200リットル)5杯分の水の中の1mlの水
mg/m3	1m <sup>3</sup> 中に含まれる物質重量をmg(ミリグラム)で表したものの。1mgは、1千分の1グラム。
μg/m3	1m <sup>3</sup> 中に含まれる物質重量をμg(マイクログラム)で表したものの。1μgは、100万分の1グラム。
pg/m3	1m <sup>3</sup> 中に含まれる物質重量をpg(ピコグラム)で表したものの。1pgは、1兆分の1グラム。
TEQ	ダイオキシン類の毒性を換算した濃度のこと。
臭気指数	人間の嗅覚を用いて、においの程度を数値化したもの。臭気指数10の目安として梅の花のにおいとされている。
定性分析	ある試料にどのような成分が含まれているかを調べること。成分分析。